計画の策定にあたって

子どものころの読書体験は、人生をより深く豊かに生きていく糧であり、子どもの人間性を育み、社会で生きるための基本的な知識や考え方を身につける重要な契機になります。

全国学校図書館協議会が毎年行っている「学校読書調査」の第６３回（2017 年）調査によると、子どもが 1 か月に読んだ本の平均冊数は、小学生が 11.1 冊（前年度 11.4 冊）、中学生は、4.5 冊（同 4.2 冊）、高校生が 1.5 冊（同 1.4 冊）であり、前回に比べて小学生が微減になったものの、全体として増加傾向にあります。

また、1 か月に 1 冊も本を読まなかった子どもの割合（不読率）は、小学生６％（前年度４％）中学生 15％（同 15.4％）、高校生 50％（同 57％）で、小学生は前年度に比べ２ポイント増え、中学生は横ばい、高校生は７ポイントの減少となっています。

町立図書館の貸出実態からは、奈義町の子どもについても、全国と同様に、学校種が切り替わるタイミングで読書離れが進んでいることが見て取れます。

これらの現状を改善するには、家庭、学校、町立図書館等、関連諸団体と個人がそれぞれの強みと持ち味を生かしながら、切れ目のない読書支援を行っていくことが重要です。

このたび策定した「第３次奈義町子ども読書活動推進計画」に基づく取り組みを通じて、奈義町のすべての子どもが、あらゆる機会と場所において自由で豊かな読書に親しむことができるよう、また、適切な時期に適切な本の楽しみに出会えるように努めていきます。

平成３１年３月
奈義町教育長　甲田　勝資